



松本道弘

Matsumoto Michihiro

英語は格闘技だ

武蔵が英語に挑戦すれば

CHIKUMA SHINSHO

……相手の意表をつくことを「石火のあたり」と武蔵は述べる。これらの居合い抜き返答はアメリカ人が日常会話でよく使う手だ。“What’s good about Internet?” “Everything is connected.” “What’s bad about Internet?” “Everything is connected.” そのあとに because を加えればよい。まずとっさに答を返すのだ。……

ちくま新書

262



ちくま新書

262

英語は格闘技だ
武蔵が英語に挑戦すれば

2000年9月20日 第1刷発行

著者

松本道弘

(まつもと・みちひろ)

発行者

菊池明郎

発行所

株式会社 筑摩書房

東京都台東区蔵前2-5-3 郵便番号111-8755

振替00160-8-4123

装幀者

間村俊一

印刷・製本

三松堂印刷 株式会社

ちくま新書の定価はカバーに表示してあります。
ご注文・お問い合わせ、落丁本・乱丁本の交換は下記宛へ。

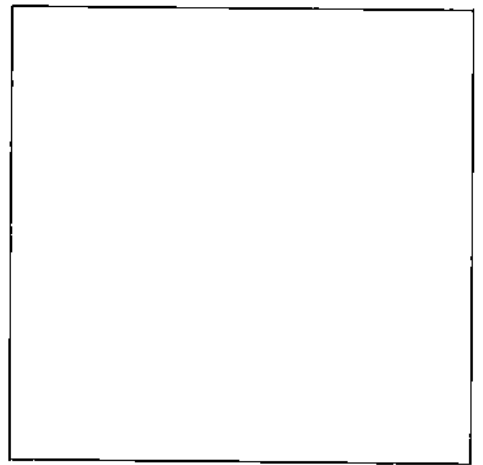
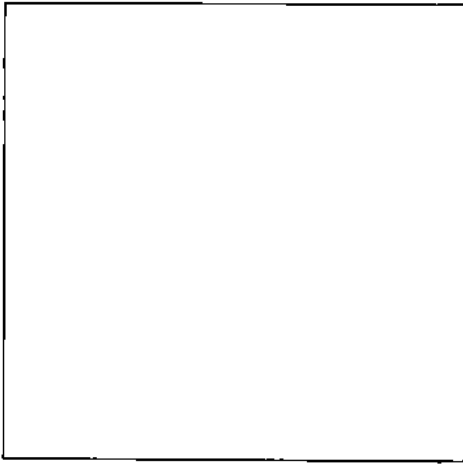
大宮市榎引町2-604 筑摩書房サービスセンター

郵便番号331-8507

電話048-651-0053

© MATSUMOTO Michihiro 2000 Printed in Japan

ISBN4-480-05862-1 C0282

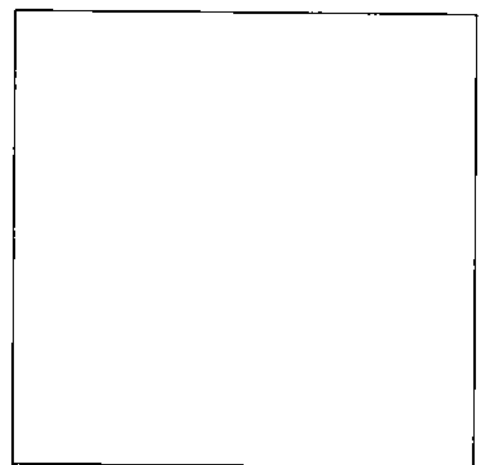
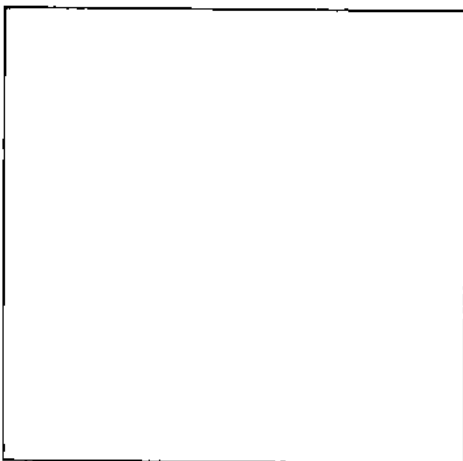


松本道弘
 Matsumoto Michihiro

ちくま新書

英語は格闘技だ

——武蔵が英語に挑戦すれば



英語は格闘技だ
武蔵が英語に挑戦すれば
【目次】

まえがき 007

序の巻 武蔵と英語

プロローグ 英語という武器 016

Does it work? 斬れる英語とは プロの英語 実戦
に役立つ strong English

scene 1 宮本と佐々木の英語対決——『タイム』は精読か
速読か 025

地と水の巻

英語 地の巻 (1) 038

Yakuza! Apologize! high の英語術と deep の英語
道 It's a matter of principle.は大上段の構え 英語
と日本語を使いわける

英語はスポーツか武道か 049

スポーツと武道の違い 英語の真剣勝負

英語 地の巻 (2) 053

英語地の巻、9ヶ条 スピーチから離れよ a why-
because game がロジックの基本 相手の size up を
忘れるな look と see を混同するな ディベート派と
スピーチ派

英語 水の巻 068

principle と techniques 英単語のシンボル 欧米人
と話すときは、静と動を使いわける 3つの脅し方
Don't fight fire with fire. (火と火で闘うな) 真実に

触れるには see 1 分間 250 語の速読法 structuring
の技術 演繹法と帰納法の二刀流 デイベートの二つ
の流派 『タイム』を読むには see を強く communi-
cative English で斬る 文法プラス論理 sympathy
と empathy jealousy と envy

外国人と渡りあうための英語 100

外国人とたけくらべして勝つ方法 大勢のネイティヴ
の前で話すには 語感を強く ボキャビル派のおとし
穴 盛田ソニー会長の英語 構えのない英語のすすめ
give と get の心を知る 構えなきスピーチの達人 デ
イベートふうのスピーチ 一発英語で斬る rapport
talk を学べ 意表を突く居合い抜き英語 シャーロッ
ク・ホームズの英語 ネイティヴにより添うように
二刀流プレゼンテーション

火と風の巻

英語 火の巻 136

critical think(死活思考)を鍛えよ 小学生に英語はムダ
か 基本の型 (principle) から応用へ 場をわきま
えてこそ斬れる英語 先手をとる秘訣 先手をとられた
らどう英語で返すか mutual give は引き分けではな
い 外国人との英語交渉では枕をおさえる ラビ・バ
トラ教授の英語 ユダヤ人から交渉で「敵になる」方
法を学ぶ 武器としての英語は武の火 why で先手
をとれ あわてずにキー・ワードを探す

scene 2 佐々木、デイベートを研究する

ディベートのエッセンス なぜディベートか
scene 3 マタとヨシの会話——帰国子女の英語と学校英
語 179

scene 4 英語第2 公用語ディベート 185

scene 5 捕鯨ディベート 189

空の巻

scene 6 タク先生の授業 196

scene 7 エピローグ Look at the stars! 202

あとがき 205

まえがき

剣聖・宮本武蔵と英語。どう考えても結びつかない。そもそも、刀剣と英語では比較にならないではないか、という読者の戸惑った表情が浮かんでくる。

たしかに、武器と言語とは別のモノなのだ。だが、ココロはどうか。そのココロ（機能）とは、斬る（コミュニケーション）ことに他ならない。だから英語という一外国語も、コミュニケーションのための道具であり、武器にもなりうるのだ。

Arm yourself with English. は、「英語で武装せよ」という意味である。arm には「武器 (n.)」と「武装する (v.)」という意味がある。英語情報で知的武装せよ、という場合の「武装」も、arm oneself という斬れる英語表現が使われるのである。

英語を武器として考えると、ここで二派に分かれる。

英語のスキル（術）そのものを学ぶ——英語術（英語のテクニックのみで日本の英語人口の 90 パーセントがこの流派）。

英語の術を通じて、人の道を学ぶ——英語道（英語以外の道にも通じるプリンシプル——原理・原則を求める。日本の英語人口の 10 パーセント）。

ここには、明らかに〈哲学〉の相違がある。知恵（ソフイー）を好む（フィル）のがフィロソフイー。Arm your-

self with philosophy. (哲学で武装せよ) と私は主張する。

哲学者アリストテレスは、武人アレクサンダー大王に、そう教育したはずである。これまで多くの日本人にとり、剣豪・宮本武蔵は鑑かがみ (role model) であった。人は (とくに男は)、無敵の武蔵の生きざまにしばれる——いや、死にざまにも。あれほど真剣勝負を繰り返しながらも、畳の上で大往生ができたのだから。今、畳の上で死ねる日本人が何人いるか。

還暦を迎えた私は、武蔵の死にざまにまで identify with (心酔) してしまう。

「死」を定義しながら、生き方を規定していく——これが武士道の principle (バックボーン) であれば、宮本武蔵は、兵道の道一筋に生きた理想的な武芸者であった。

武道は道によってあらゆる諸芸と結びつく。当然、武道は英語にも結びつく。

道。そうだ。この道が扇子の要かなめとなって、繰り広げられた人間模様が、吉川英治が描いた大衆小説『宮本武蔵』であったのだ。

だれしものが英語の名人になれるわけではない。それは、だれしものが武蔵のような剣の名人にはなれないのと同じだ。

名人は届かない、そして見えない存在だ。しかし、達人なら見える。巖流島で決闘をした宮本武蔵と佐々木小次郎は、剣の達人同士だから迫力があったのだ。名人同士なら、〈相抜け〉の境地に達しており、剣を抜かない。禅の大家鈴木大拙は、この「相抜け」が英訳できず、苦しまぎれに mutual escape と訳したそうだが、「相抜け」という、勝

敗を超越した天国のような境地に達するために、人は地獄を恐れず、激しい修業に明け暮れるのである。

人は、剣をとれば負けなかった強い武蔵に憧れると同時に、剣を捨てた武蔵にもしびれる。私も武蔵の男に惚れ、彼の哲学に陶醉した男の一人である。

小説『宮本武蔵』の登場人物になぞらえれば、私の英語人生で闘ってきた相手には佐々木小次郎型の間人が一番多かった。日本の人口の90パーセントを占める、ホンネに流される又八タイプやタテマエで自己を埋没させる吉岡道場の門下生などは、相手にはならなかった。やはり挑戦しがいのある相手は残りの10パーセントだ。つまり100名いれば、トップの10名は武蔵タイプと小次郎タイプに分けられる。

小次郎にとって英語は武器。斬ればいい。自分のエゴ(慾)を満たす手段に過ぎない。だから情は仇^{あだ}なのだ。英語に道徳を持ち込むのは愚の骨頂と考えている。

武蔵にとっては勝つことが全て。構えも、刀も、すべて勝つためのもの。ここまでは小次郎とさして変らない。しかしその武器としての英語は、モノであり、ココロでもある。「知」と同じように、「情」も「遊び (break) の構え」として必要である。自分の慾を敵とし、自然を味方にして勝つのが兵法の道である、と考える。

武蔵が粹^{すい}とすれば、小次郎は粋^{いき}なのだ。その英語哲学の違い——道か術か——が両者を、無慈悲に引き裂いてしまうことになる。

武蔵も小次郎もどちらも天才である。そして英雄である。しかし両雄は必ず反目しあうか、戦う——あるいは闘わさ

れる——羽目に陥る。そしていずれかが——あるいは双方とも——悲劇的な終末を迎える。

今年5月東京ドームで開かれたコロシウム2000大会で、400戦無敗のプロレス・チャンピオン、ヒクソン・グレイシーに挑み12分で締め倒された船木誠勝は、「もう死んだ」と言ってリングを去った。硬骨の士^{もののふ}として散ったのだ。真剣勝負に生きるこの無敵の男が尊敬していたのが宮本武蔵だ。ブルース・リーと同じく『五輪書』をバイブルとしていたのだ。しかし、世の中が「一度破れればもうプロとしての生命がない」という武道家ばかりでは殺伐としたものになる。女性を含めて英語武芸者の90パーセント以上は、本書に述べるヨシ（吉岡道場一門）やマタ（又八）で占められていることはすでに述べた。

英語が楽しいのは、英語を通じて繰り広げられる英語の人生模様が楽しいのだ。

英語道とは人生道のことであり、英語道場は人生道場であり、人生劇場でもあるのだ。

私は、「斬れる英語」を目ざす読者のために、本書で『五輪書』を読解し、同時に、今はやりの virtual reality（仮想現実）のタッチに挑戦してみた。関ヶ原の合戦の頃に青春を迎えた宮本武蔵が、名を変えて現在の舞台に登場する。読者に〈英語と『五輪書』〉という組み合わせに臨場感（a sense of immediacy）を感じていただくには、ドラマ化というこの方法が一番よいと思われたのである。

すべての楽しいドラマには、水、火、石、風、空の最低5つの異なったタイプの登場人物が必要である。彼らの思

考と、それによって引き起こされる行動パターンも、5つに大別できるはずである。私の愛読書に *The Art of Thinking* (『思考術』バークレー・ノンフィクション社) がある。これは Allen F.Harrison と Robert M.Bramson という二人の哲学博士によって書かれたものだが、『宮本武蔵』を書いた吉川英治の分析と不気味なほど似通っているので、本書では、思い切って統合 (synthesize) させてみた。

二人の博士は思考を次の5つのパターン (styles of thinking) に分けるが、それを私の多角論理 (polylogic) を用いて『宮本武蔵』の登場人物たちにアイデンティファイさせてみた。

(水) Idealist 武蔵型 (本書のドラマでは宮本) : 理想家

……英語を武器として、英語の術 (モノ) と同時に、英語の道を究める。

(火) Pragmatist 小次郎型 (佐々木) : 戦略的行動家

……英語をモノとみなし、技術で日本一になろうとの執念に燃える強力なエゴの持ち主。

(石) Analyst 吉岡型 (ヨシ) : 分析家

……英語はあくまで自分の立身出世の手段であり、英語が security blanket (甘えの対象) になってしまうことに気づかない。世間体を気にし、知に動き過ぎる。IQタイプ。小次郎に憧れる。

(風) Realist 又八型 (マタ) : 現実主義者

……状況の変化に応じた英語を使う。現状に逆らわない

フィーリング・タイプ。情に流されるタイプだが、EQは高い。武蔵に憧れる。

(空) Synthesist 沢庵型 (タク先生) : 指揮者

……英語は眼中にない。あらゆる人間を楽器とみなし、和を奏る禅師。武蔵が勝てない唯一の、空の mentor (指導者)。

彼らが使う英語もそれぞれ違う。

「考えるとはどういうことかね」を英作させてみればよく分かる。

吉岡型 : What's your opinion of the idea of thinking?

又八型 : What do you think of thinking? Give me your thought on it.

佐々木型 : What makes you think the way you do?

宮本型 : How do you think about thinking? Uh...
What do you make of it?

Uh と間をとって、What do you make of it? と相手に切り返すのが宮本だ。しかしそれよりも、周囲の者はその前の What do you think of ~. というべきところを How do you think ~. と基礎的なミスを犯したと思うだろう。だが「あえて How ~. を使ったのに違いない。自分たちとは次元の違う英語なのだ」と思い直し、全員がいつの間にか宮本の英語につられて How do you mean? (それはどういう意味ですか?) と、次元がひとつ上の英語を使うようになる。周囲を動かす英語なのだ。

人は無敵の武蔵を恐れる。そして沢庵禅師を恐れる人はだれもいない。不思議なことに、そのような自然体の沢庵

を武蔵が一番恐れるのだ。私はこの沢庵を5つのタイプのうち「空」のタクとして登場させてみた。このタクこそが理想的な英語道の truth (ミチ) を目指す英語教育者だ、と私は判断している。

私は本書で、その証明をしなければならないのだが、焦る。何しろ私の文筆力と想像力にも限界がある上に、私にとっても雲の上の「空」の人物が描けるのだろうか、と考えただけでも身震いを禁じ得ない。

私の英語人生で私自身に問いかけてきた質問が一つある。「もし、武蔵が英語をやれば……」である。

「自分は確実に負ける」とこれまで言い続けてきた。武蔵は剣を持たせても、英語を学ばせても日本一なのだ——武蔵自身が言っているように、一芸は多芸に通じるのだから。

しかし還暦を迎えた私はこの無敵の武蔵の限界も見え始めてきた。武蔵の上には、武蔵を tough love で操ることのできる唯一の人物、沢庵和尚（本書のドラマではタク）がいる。

……とにかく川の流れのように書き続けてみる。

平成 10 年 6 月

松本道弘

本書を執筆するにあたり鎌田茂雄氏の『五輪書』（講談社学術文庫、1986年）、神子侃氏の『五輪書』（徳間書店、1963年）、および Victor Harris 氏と Thomas Cleary 氏の英訳を参考にし、一部を引用させていただいた。

Getting Started

序の巻 武蔵と英語

